

令和6年度の決算の状況についてお知らせします

1 一般会計 ～令和6年度の実質収支額は18億1,382万円の黒字です～

本市の令和6年度の歳入は630億1,324万円。歳出は606億898万円で、差し引き額（形式収支）は24億426万円の黒字です。そこから翌年度に繰り越すお金である5億9,044万円を差し引いた額（実質収支）は18億1,382万円の黒字になりました。

■歳入について

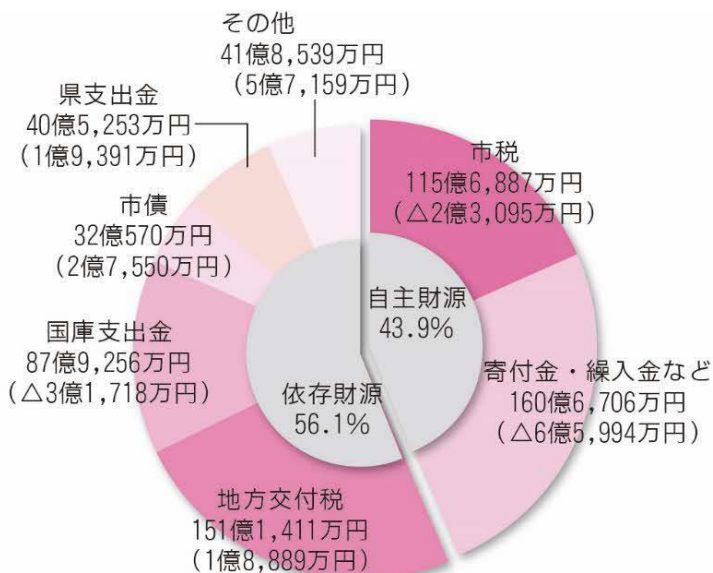
歳入を前年度と比較すると、自主財源の代表的なものである市税は2億3,095万円（2.0%）減少し、自主財源全体では、前年度からの繰越金の減少などにより8億9,089万円（3.1%）減少しました。

依存財源の代表的なものである地方交付税は1億8,889万円（1.3%）増加し、依存財源全体では定額減税の実施に伴う減収補填として国からの交付金が増加したことなどにより9億1,272万円（2.6%）増加。歳入全体では、2,183万円（0.4%）増加しました。

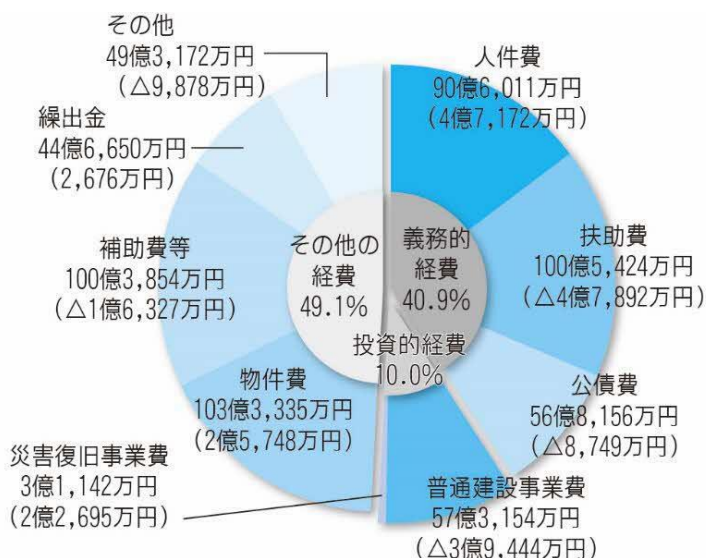
■歳出について

歳出を性質別で前年度と比較すると、義務的経費は、電気・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付の減少などによる扶助費の減少により9,469万円（0.4%）減少し、投資的経費は、産業団地整備事業費の皆減（特別会計で実施）などによる普通建設事業費の減少により、1億6,749万円（2.7%）減少しました。その他の経費は、ソフトウェア使用料の増加などによる物件費の増加により、2,219万円（0.1%）増加し、歳出全体では2億3,999万円（0.4%）減少しました。

令和6年度歳入：630億1,324万円



令和6年度歳出：606億898万円



※カッコ書きは前年度比の数値

令和 6 年度の主な事業の概要

子ども・子育て応援プロジェクト

医療費助成事業 2億8,330万円

市内の乳幼児、小中学生、高校生、妊産婦などの医療費助成を行い、医療機関窓口での支払い負担を軽減しました。

※市では、市内の乳幼児、小中学生、高校生、妊産婦の医療費助成について所得制限を撤廃しており、市内の全ての子どもや妊産婦などが医療費助成の対象となっています



学童クラブ施設整備事業、小・中学校施設維持事業 10億5,652万円
(うち前年度からの繰越：2億8,497万円)

新規開設する「ほめのば学童クラブ」「花巻太陽の子学童クラブ」の施設整備や、小・中学校の改修工事などを行いました。桜台小学校の長寿命化工事については、既存校舎を使用しながら令和 4 年 9 月から内装改修やエレベーターの増築などを行い、本年 3 月に完成しました。



事業名	決算額	事業概要
副食費負担軽減事業（保育施設）	3,402万円	市内保育施設などに通う第 2 子以降の副食費について、保護者の所得にかかわらず月額4,800円を上限に支援したほか、第 1 子についても食材費の価格高騰分を市が負担することで、保護者の副食費負担額を据え置きました。
学校給食賄材料費軽減分（小中学校）	3,857万円	市内小中学校の給食費についても、食材費の価格高騰分を市が負担することで、保護者の学校給食費負担額を据え置きました。
周産期医療確保対策事業	125万円	市内産科医療機関で勤務する産科医師などに対して、家賃や帰郷時の交通費を補助しました。
奨学金活用人材確保支援事業、はなまき夢応援奨学金事業	1,273万円	卒業後に市内に居住すると返還が免除される「はなまき夢応援奨学金」について、貸与月額上限額を 2 万円から 3 万円に増額しました。また、市の貸付型奨学金を返還している人を対象に、返還月額の半額を補助する「ふるさと奨学生定着事業補助金」について、市外の大学などを卒業した人も新たに補助対象にするなど、大学などへの進学を後押ししました。

花巻で暮らそうプロジェクト

定住促進事業 6,139万円

子育て世帯の住宅取得、空き家バンクの活用、若者世代などの空き家活用、移住者の住宅取得などを支援しました。一部の奨励金などについては、子育て世帯に対して子ども 1 人当たり10万円を加算する、制度の拡充を行いました。



J R 花巻駅東西自由通路等整備事業 1億1,520万円

J R 花巻駅東西自由通路整備の基本設計を終え、実施設計に着手したほか、西口駅前広場整備の基本設計が完了するなど、着実に事業を進めました。



事業名	決算額	事業概要
結婚新生活等支援事業	1,664万円	婚活イベントのモデル事業を開催したほか、結婚に伴う新生活のスタートアップに必要な費用を支援しました。 ※夫婦いずれも29歳以下の場合は10万円を加算する、制度の拡充を行いました
産業団地整備 ※特別会計	7億5,129万円	花南産業団地の整備を進め、中央部（B 工区）の分譲を開始しました。南側（C 工区）は用地買収および実施設計に着手し、北側（A 工区）は用地測量や埋蔵文化財試掘調査などを行いました。

事業名	決算額	事業概要
U I J ターン者就業奨励金、移住支援金事業	2,200万円	県外から転入して、市内事業所に一定期間就業した人などに対し、奨励金や支援金を交付しました。
新規就農者支援事業補助金、農業研修支援事業補助金	335万円	新たに農業を始める人を対象に、農業機械購入の初期費用や農地の賃借料、研修の受講費用を支援しました。
商店街賑わいづくり事業	5,009万円	商店街組合などが実施するイベントへの補助、中心市街地で空き店舗を活用して新たに創業する事業者への支援、「日本ワインフェスティバル花巻大迫」の開催費用の一部負担などを行いました。

○市民の生活を守り 魅力あふれる強く優しい まちづくり

■公共交通確保対策事業 2億6,321万円

令和6年3月で廃線となったバス路線「土沢線」の代替交通としてコミュニティバスを運行しました。また、湯口、湯本、宮野目、矢沢地区における交通空白地域を縮減するため、予約乗合交通の運行を開始しました。



■有害鳥獣被害対策事業 7,510万円
(うち前年度からの繰越：354万円)

多発する市街地などでのクマの出没に迅速に対応するため、クマの出没箇所などにA Iカメラを設置し、警戒態勢を強化しました。また、未利用果樹の伐採に対する補助制度を創設するなど、人里へのクマの侵入を防ぐ取り組みを進めました。



事業名	決算額	事業概要
タクシー等助成券交付、通院時交通費助成	2,118万円	上記の公共交通確保対策事業とは別に、交通手段を持たない高齢者や障がい者の買い物や通院などを支援するためタクシー等助成券を給付しました。また、通院時のタクシー利用に対する助成金の限度額を拡充しました。
带状疱疹予防接種費補助	6,013万円	50歳以上の市民を対象に、带状疱疹の予防接種に対する補助制度を創設しました。
生活道路・橋梁の維持整備	34億8,971万円	安全で快適に通行できる道路網を構築するための整備や維持修繕、除排雪などを行いました。
図書館整備事業	2,436万円	新花巻図書館整備基本計画の策定に当たり、建設候補地の比較調査を専門業者に委託したほか、無作為抽出による市民会議を開催しました。

令和6年度イーハトーブ花巻応援寄附金（ふるさと納税）の活用状況

本市では「しごと」「暮らし」「健康・いのち」など寄付金の使い道（分野）を設定し、寄付者には、その中から希望する使い道を選んだ上で寄付をいただいています。

令和6年度は全国の皆さんから約55万件、総額で84億2,574万円の寄付をいただきました。令和6年度に寄付いただいた84億2,574万円と令和5年度に基金に積み立てた15億円を合わせた99億2,574万円のうち、40億9,868万円を令和6年度の市のまちづくりに関するさまざまな事業に充当しました。残額は返礼品の調達・発送費用やポータルサイトへの掲載に関する手数料などの事務経費に40億7,706万円を活用し、ふるさと納税基金へ17億5,000万円を積み立てました。

■ふるさと納税を充当する事業に関する市の考え方

市では、ふるさと納税による多くの寄付をいただいていることを理由に、新規事業を実施しているわけではありません。寄付いただいた皆さんが指定した使い道に沿って、ソフト事業に28億4,968万円、ハード事業に12億4,900万円、ともに寄付者の指定した使い道に該当する既存事業を中心に寄付金を充当しています。

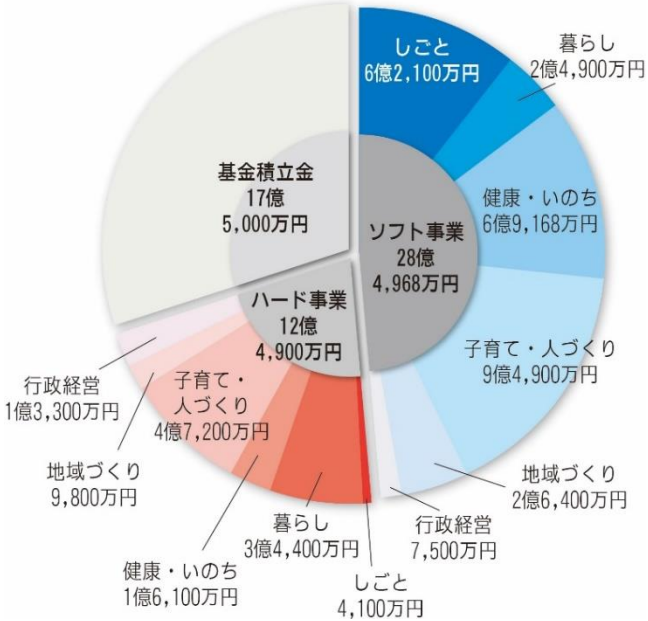
- ・ソフト事業…医療費助成やイベント開催、補助金の交付など。形として残らないものを提供する事業
- ・ハード事業…道路の維持や施設の改修、建設など目に見える形で提供することができる事業

※寄付金を充当した具体的な事業などは広報はなまき 8月15日号または市のホームページをご覧ください。



寄付金・基金の使い道（分野）ごとのふるさと納税の活用

〇ソフト・ハード事業ごとの寄付金・基金の活用金額



〇分野ごとの寄付金・基金の充当金額、充当事業数

分野	事業への 充当金額	充当した 事業数
①しごと	6億6,200万円	31事業
②暮らし	5億9,300万円	10事業
③健康・いのち	8億5,268万円	18事業
④子育て・人づくり	14億2,100万円	46事業
⑤地域づくり	3億6,200万円	7事業
⑥行政経営	2億800万円	3事業
合計	40億9,868万円	115事業

2 特別会計および公営企業会計（下水道事業）の決算について

■特別会計について

特別会計は、特定の目的のために保険料や使用料などの特定の収入で運営していく事業の会計です。お金の出し入れをはっきりさせるため、一般会計とは別に管理しています。

本市には、国民健康保険・後期高齢者医療・介護保険・公設地方卸売市場事業、産業団地事業の5つの特別会計があり、それぞれの会計で決算が行われています。

■令和6年度の特別会計決算の総括表

会計名	歳入	歳出	差引残額
国民健康保険	87億7,492万円	87億7,367万円	125万円
後期高齢者医療	24億5,645万円	24億5,374万円	271万円
介護保険	111億5,281万円	110億2,117万円	1億3,164万円
公設地方卸売市場事業	1億5,784万円	1億5,664万円	120万円
産業団地事業	8億3,080万円	7億5,129万円	7,951万円
合計	233億7,282万円	231億5,650万円	2億1,632万円

■公営企業会計について

公営企業会計とは、特別会計の中でも複式簿記により経理を行う会計です。本市では、下水道事業がこれに該当し、公共下水道事業・農業集落排水事業・戸別浄化槽事業を一体的に管理しています。

■令和6年度の公営企業会計決算の状況

項目		公共下水道	農業集落排水	戸別浄化槽	合計
収益的収支 (税抜き)	収入	23億3,784万円	8億4,847万円	1億4,949万円	33億3,580万円
	支出	22億6,045万円	8億7,018万円	1億9,014万円	33億2,077万円
	純利益	7,739万円	△2,171万円	△4,065万円	1,503万円
資本的収支 (税込み)	収入	14億3,235万円	8億1,678万円	45万円	22億4,958万円
	支出	23億5,093万円	10億8,277万円	3,744万円	34億7,114万円
	留保資金補てん額	9億1,858万円	2億6,599万円	3,699万円	12億2,156万円

※留保資金とは、純利益に加え、減価償却費のように実際に現金が動かない費用にかかる資金などで、企業内部に留保されたものです

3 本市の財政状況 ～全項目で健全化基準をクリアしています～

財政状況が良好かどうかを示す指標に、財政健全化判断比率（４分類）と資金不足比率があります。

国が示すこの指標の判断基準により、市の財政が【健全団体・早期健全化団体（要注意状態）・財政再生団体（破たん状態）】のいずれの状態にあるか、また各会計の経営がどのような状態になっているのかを判断することができます。この指標のうち一つでも基準値以上になった場合は、それぞれ法で定められた計画の策定を行い、財政の健全化に向け取り組んでいく必要があります。

本市では、基準値を超える項目はなく、財政状況は健全ですが、今後も引き続き無駄のない財政運営に努め、一層の財政の健全化に取り組んでいきます。

■財政健全化判断比率

区分	花巻市の令和 6 年度の数値 (カッコ内は令和 5 年度数値)	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	— ^{パーセント} (— ^{パーセント})	11.86 ^{パーセント}	20 ^{パーセント}
連結実質赤字比率	— ^{パーセント} (— ^{パーセント})	16.86 ^{パーセント}	30 ^{パーセント}
実質公債費比率	9.2 ^{パーセント} (8.7 ^{パーセント})	25 ^{パーセント}	35 ^{パーセント}
将来負担比率	50.6 ^{パーセント} (44.4 ^{パーセント})	350 ^{パーセント}	

■資金不足比率

会計名	花巻市の令和 6 年度の数値 (カッコ内は令和 5 年度数値)	経営健全化基準
公設地方卸売市場事業	— ^{パーセント} (— ^{パーセント})	20 ^{パーセント}
産業団地事業	— ^{パーセント} (— ^{パーセント})	20 ^{パーセント}

※表中、各基準は国が示した数値です

※赤字額、資金不足がない場合は、「— ㍴」で表示しています

実質赤字比率：普通会計（一般会計など）の赤字比率

連結実質赤字比率：市の全ての会計（普通会計・特別会計・公営企業会計）を含めた赤字比率

実質公債費比率：市の全ての会計に一部事務組合などの会計を含めたもので、公債費の財政負担を見るための比率

将来負担比率：市の全ての会計と一部事務組合などの会計に第3セクターなどの会計を含めたもので、普通会計が将来、財政負担する実質的な負債（借入金残高など）を見るための比率。

本市の将来負担比率は50.6㍴であり、このうち一般会計が12.3㍴、公営企業会計が36.1㍴、他市町などと組織している一部事務組合が2.2㍴となっています。なお、公営企業会計の36.1㍴のうち、下水道事業会計が35.9㍴、公設地方卸売市場会計が0.2㍴となっており、本市の将来負担比率は、下水道事業会計が高い割合を占めています。

資金不足比率：特別会計などの事業の規模に対する資金不足額の比率

4 一般会計の基金（貯金）および市債（借金）の状況 ～借金が減少しました～

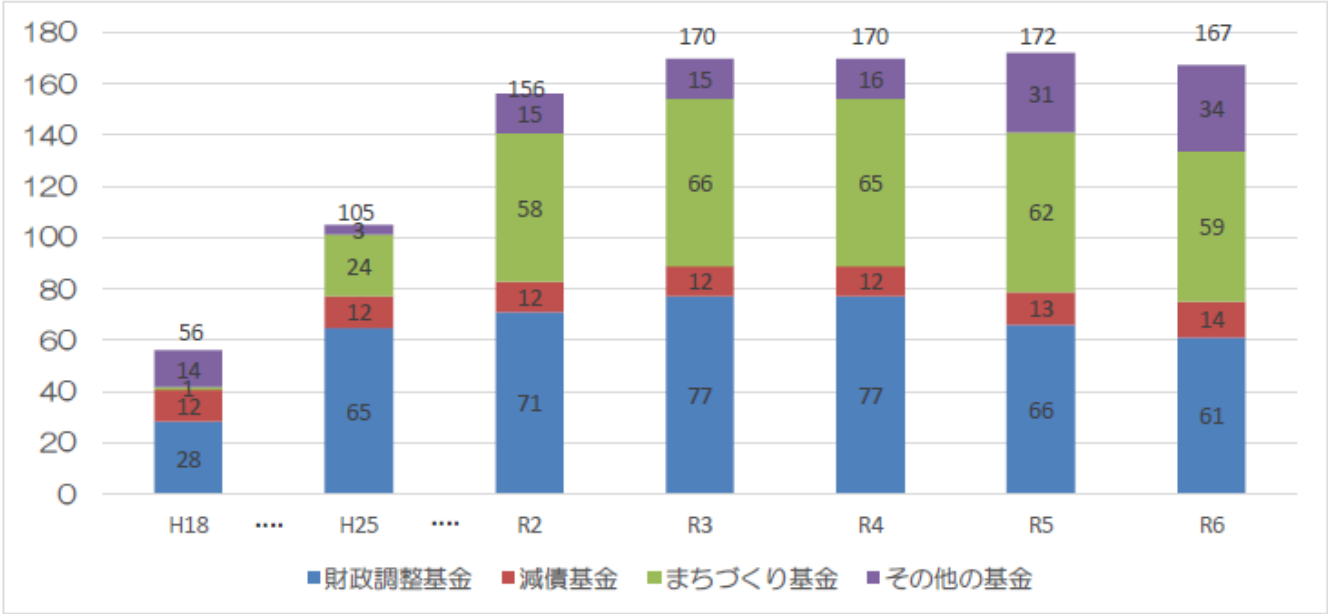
■基金の状況

項目	令和 5 年度末 現在高 (a)	令和 6 年度期中異動			令和 6 年度末 現在高 (e = a + d)
		積立 (b)	取崩 (c)	増減 (d = b - c)	
財政調整基金	65億9,210万円	8億6,567万円	13億3,441万円	△4億6,874万円	61億2,336万円
減債基金	12億8,423万円	1億6,284万円	6,556万円	9,728万円	13億8,151万円
まちづくり基金	62億3,595万円	662万円	3億8,951万円	△3億8,289万円	58億5,306万円
その他（※）	30億8,939万円	17億9,909万円	15億1,876万円	2億8,033万円	33億6,972万円
合計	172億167万円	28億3,422万円	33億824万円	△4億7,402万円	167億2,765万円

※その他…福祉対策基金、イーハトーブ花巻応援基金、土地開発基金、奨学基金など

■ 基金の推移

(単位：億円)



■ 市債の状況

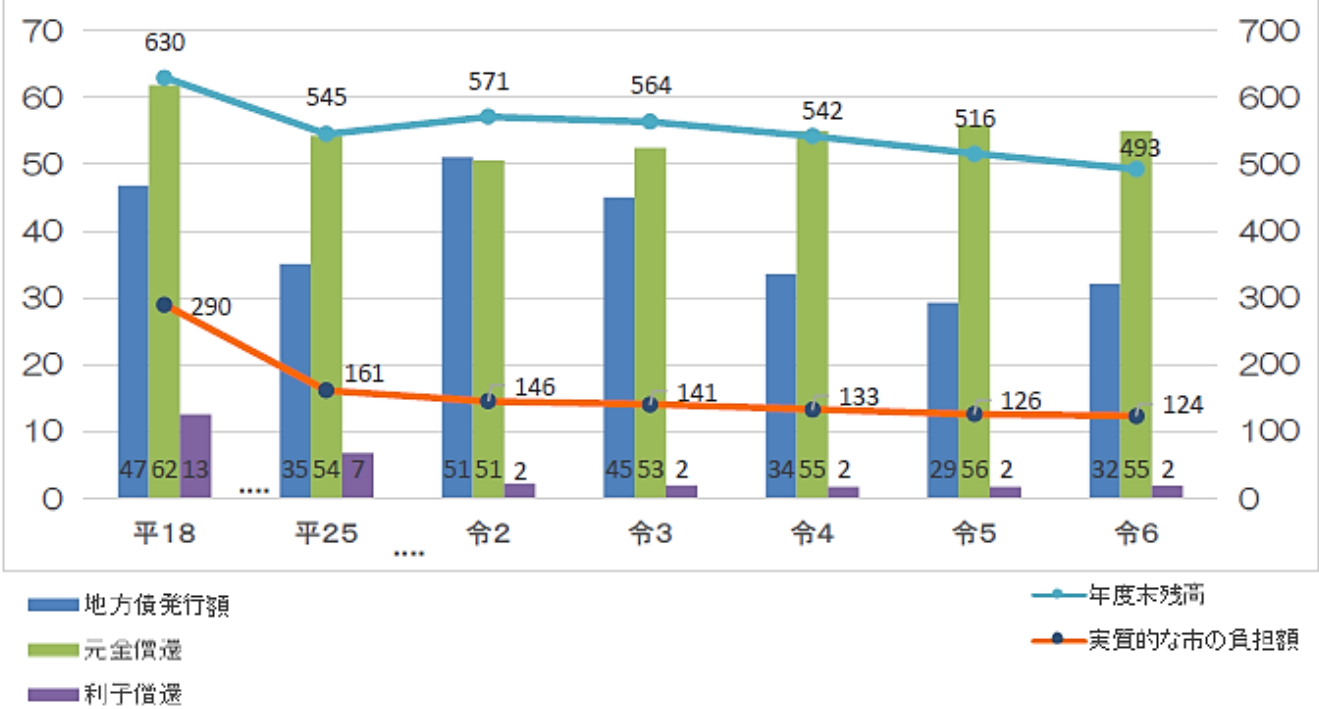
令和 5 年度末 現在高 (a)	令和 6 年度期中異動			令和 6 年度末 現在高 (e = a + d)
	発行額 (b)	元金償還額 (c)	増減 (d = b - c)	
515億5,646万円	32億570万円	54億9,688万円	△22億9,118万円	492億6,528万円

令和 6 年度に32億570万円を新たに借入れ（地方債の発行）て、54億9,688万円を返済（元金の償還）したことにより、令和 6 年度末の一般会計における市債残高は、令和 5 年度末の515億5,646万円から、492億6,528万円に減少しています。

※市債の発行は原則として、公共施設の建設など資産形成を伴うものの費用に充てる場合に限られます

■ 市債の推移

(単位：億円)



一般会計の市債残高は、合併時の平成18年度630億円と比較すると137億円減の493億円となっています。また、市債残高のうち後年度に地方交付税として受けることができる額や、民間企業に貸付けを行う場合に発行する地域総合整備資金貸付事業債（後年度、民間企業より市に償還される）分を除いた実質的な市の負担額は、平成18年度の290億円から166億円減の124億円にまで減少しています。